

“朝鮮高校にも差別なく高校無償化を求めるネットワーク愛知”会報



第3号

つうしん
通信

★「トトリ」は朝鮮語で「どんぐり」を意味します

http://musyokanetaichi.blog.fc2.com
kwangsin0322@gmail.com
0562-97-1815



ひとりひとりが
手をとりあって...



2011.12.6発行

「朝鮮高校無償化ネット愛知」事務次長 尹光信

経過

報告

去る8月29日、日本政府当局は、朝鮮学校に対する「高校無償化」適用の審査手続きを再開しました。

朝鮮高校生徒は、昨年、「高校無償化法制度」施行から幾度となく期待を裏切られ、政治的な理由で差別を受けた状態で2011年度を迎え、今年3月に卒業した生徒たちは全く支援のないまま卒業を余儀なくされました。子供たちの「学び」「成長」する権利は保障されるべきであり、差別される理由は全くありません。生徒自らが原告となり提訴することを決め、弁護団も結成され、私たち「朝鮮高校無償化ネット愛知」も、この訴訟を全面的に支えていく準備を進めている時の審査再開の発表であり、朝鮮高校生徒を排除したままの「高校無償化法制度」施行から約1年5ヶ月後の「一報」でありました。

しかし、審査再開から約3カ月経った今も審査は終了しておらず、一部の新聞などでは、朝鮮高校に関する歪曲した報道がなされています。これに対し、全国朝鮮高級学校校長会は、11月8日に談話を発表し、いまだに審査が終了せず適用の決定がなされていないことに遺憾の意を示し、実施から1年半以上過ぎた今でも朝鮮高校に通う生徒たちだけが除外されるという民族差別が続いていることはあまりにも理不尽だと指摘しました。

また、意図的に偏向報道を繰り返し記事をねつ造してきた一部の新聞を批判し、文科省がこうした歪曲記事に惑わされることなく、「無償化」制度の趣旨である「学びの支援」や政府の統一見解、自ら示した基準にのっとり、公正かつ速やかに審査を終了し、朝鮮学校生徒への「無償化」制度適用を一日も早く実施することを強く求めました。

また、愛知朝鮮中高級学校生徒たちも、去る11月19日に自主集会を開催し、いまだに「無償化」適用決定がなされていないのに対し「これ以上私たちを翻弄しないでほしい」「私たちの心に深い傷をつけないでほしい」と訴えました。

みなさん！今の状況は決して楽観視できるものではありません。

最後まで朝鮮学校生徒への「無償化」制度適用を一日も早く実施させるため、運動をより力強く進めなければなりません。そのために首相官邸と文科省に対する要請活動を行っていきましょう。

要請はがき、電話・Eメールなどを活用して私たちの声を届けましょう。

朝鮮学校生徒たちが被った心の傷を癒し、明るい笑顔を取り戻すため、共に最後まで頑張りましょう！

(ゆん・ぐあんしん 愛知朝鮮中高級学校 対外部長)



文部科学省や首相官邸に「1日も早い無償化適用を！」の声を届けましょう！

文部科学省
〒100-8959 東京都千代田区霞が関三丁目2番2号
電話番号：03-5253-4111
<https://www.inquiry.mext.go.jp/inquiry38/>

首相官邸
〒100-0014 東京都千代田区永田町二丁目3番1号
電話番号：03-3581-0101
https://www.kantei.go.jp/jp/forms/goiken_ssl.html

＜参考＞

私は朝鮮高級学校生徒に一日も早く「高校無償化」制度を適用することを求めます。

「高校無償化」の趣旨は「すべての意志ある高校生などが安心して勉学に打ち込める社会をつくるために、家庭の教育費負担を軽減すること」であったはずですが。

朝鮮高級学校生徒は自分たちのルーツや言語を学び、一人の人間として堂々と生きていくための教育を朝鮮学校で受けております。生徒たちには、日朝間の政治や外交問題への責任は一切ないことは明白です。

これまでの政府見解通り「政治・外交上の問題」と「無償化」審査を決して混同することなく、公平な審査を行い、朝鮮高級学校生徒に対して速やかに「高校無償化」制度を適用してください。



内閣総理大臣 野田佳彦 殿
文部科学大臣 中川正春 殿
内閣官房長官 藤村 修 殿

朝鮮高校生徒への「高校無償化」の即時適用を求める要請書

去る8月29日、菅直人前総理大臣は、文部科学大臣に対し、昨年11月の南北朝鮮の軍事衝突事件の勃発以来停止していた朝鮮高校に対する無償化適用に向けての審査再開の指示を出し、現在も審査が行われております。

昨年11月24日の審査停止は、そもそもが、高校無償化法上の根拠を欠く超法規的かつ「外国人学校の指定については、外交上の配慮などにより判断すべきものではなく、教育上の観点から客観的に判断すべき」とする政府統一見解に反する違法、不当な措置でありました。したがって、遅きに失したとはいえ高校無償化法に基づく審査が再開されたことを、私たちは喜びをもって迎えました。しかし、審査再開から3ヶ月が経過しようとする今に至っても、依然朝鮮高校生たちには就学支援金が支給されておられません。また、私たちの求める2010年度分の就学支援金の遡及支給についても、未だ政府の態度は明らかではありません。

昨年の無償化審査停止後、朝鮮高校の生徒たちは、このあまりにも不当な民族差別に立ち向かうために、自らが原告となり国を提訴することを決意し、私たち「朝鮮高校にも差別なく無償化を求めるネットワーク愛知」は、この訴訟を全面的に支えていく決意でありました。

朝鮮高校生たちは、公私立学校及びほかの外国人学校の生徒たちと、何ら変わりなく勉学に打ち込んでいるにもかかわらず、昨年4月1日の高校無償化制度開始より、その制度の趣旨である「学びの支援」から排除され続けてきました。政府統一見解にもあるとおり、「すべての意志ある生徒の学びを保障し、家庭の状況にかかわらず、安心して勉学に打ち込める社会をつくる」ことを目的とする高校無償化と、国家間の政治・外交とは何の関係もないはずで

それにもかかわらず、政府が、朝鮮民主主義人民共和国と日本との政治・外交上の関係を問題にして、朝鮮高校生たちのみを無償化から排除し続けていることは、日本国憲法、国際人権規約、人種差別撤廃条約、子どもの権利条約で禁止された民族差別にほかなりません。外国人学校のうち、いわゆるナショナルスクールでは、多かれ少なかれ、日本とは異なる本国の政治的立場に基づく教育がなされている実情があります。朝鮮学校の教育のみを問題視する行為は、明らかな民族差別です。

日本で生まれ、日本で育った朝鮮高校生たちには、政治・外交に対して何らの責任がないことは明白な事実です。

また、子どもの権利条約等により、生徒たちには自らの言語と文化を学び継承する権利が保障されています。朝鮮高校において自らの言語と文化を学ぶことが、無償化からの排除の理由となることは理不尽です。この社会を担う一員として私たちは、本来支援されるべき学びの時間を犠牲にしてまで提訴を覚悟した朝鮮高校生たちの苦しみと葛藤を、痛みを持って分かち合う社会が形成されることを望みます。

世界には未だ紛争が絶えず、人類が協力して解決していくべき問題は山積してありますが、それらの問題の解決や平和への道筋は、真摯な学びからこそ出ずるものです。国家間の紛争を理由に、子どもの学びに政治介入し、差別を助長することは決して許されない行為です。朝鮮高校の生徒たちが学ぶ権利の侵害は一刻も早く是正されなければなりません。

私たちは日本政府のこれ以上の朝鮮高校生たちに対する不当な仕打ち、教育を受ける権利への侵害、明白な差別を黙って見過ごすことはできません。

私たちは、日本政府および文部科学省に以下のとおり要請します。

1. 文部科学大臣が定めた「規程」に従い、すみやかに朝鮮学校生徒への「無償化」適用を最終決定すること。
2. 2010年度の朝鮮高校在籍生徒に対し、2010年度分の「就学支援金」を遡って適用する措置を講ずること。
3. 朝鮮高校生徒のみを「無償化」から除外してきた違法性、差別を認め、朝鮮高校生徒や保護者らに正式に謝罪すること。

2011年11月23日 朝鮮高校にも差別なく無償化を求めるネットワーク愛知

弁護団からのメッセージ

弁護士 ^{くまがい たかと} 熊谷 考人

去る平成23年8月29日、菅直人前首相は、文部科学大臣に対し、朝鮮高校に対する無償化適用に向けての審査再開の指示を出しました。

それを受けて、同日、弁護団では、訴訟等を含め、今後の対応について協議しました。

朝鮮高校に対する無償化適用に関しては、今回の審査再開までも、政府の対応が二転三転していることから、弁護団としては、予断を許さない状況が続いているとの認識を共有し、最悪の事態に至った場合、即時に訴訟を提起できるよう準備を進めていくことを確認しました。

訴訟に向けての準備として、この間、原告予定者である朝鮮高校の卒業生らから、朝鮮高校での生活や無償化適用に向けた運動の中で感じたこと等について、聴取調査を実施しました。

聴取調査を行う中で、印象に残っているのが、自分達も他の高校生と何ら変わらないのに、朝鮮高校に通っているというだけで、なぜ差別をされなければいけないのかという素朴な悲しみと憤りでした。

また、砲撃事件が発生した時、すぐに朝鮮高校に対する無償化適用への影響について不安に感じたという言葉や審査再開の指示が出された現状においても、また何が起こるか分からず、まったく安心できないという言葉も印象に残りました。

上記のような子供達の言葉は、外交上の情勢の変化等に応じて、何の関係もない朝鮮高校に通う子供達への差別が助長される日本社会の現状を如実に表しているものであり、一市民として、非常に重い責任を感じさせられました。

また、理由なき差別により子供達が深く傷付けられていることを子供達自身から語られる言葉で聞き、子供達の傷付いた心を少しでも癒すためにも、朝鮮高校に対する無償化適用を絶対に勝ち取らなければならないという気持ちを再確認しました。

今後、弁護団としては、訴訟提起の準備も含め、朝鮮高校に対する無償化を求める活動を続けていきますので、皆様、最後まで一致団結して頑張ってください。

ウリ学生の声

昨年11月下旬の朝鮮半島における軍事衝突で、「無償化の審査」が停止したニュースが流れた時、私は耳を疑った。と同時に、怒りが込み上がってきました。「なぜ?」「おかしい、間違っている」自問自答しました。なぜなら日本政府が「外交上の配慮など判断すべきものではない」と言ったと聞いたからです。

私の一歳上の姉は今年8月、「無償化」の恩恵を受けることも無く卒業しました。その時、姉たちは「ごめんね。私たちのときに無償化できなくて…」と言いました。なぜか涙が出てきました。私たち姉妹は、浜松から往復5時間かけて愛知朝鮮高校に通いました。

まだ暗い時間に家を出て、帰宅したら夜の9時半です。なぜかごまかして朝鮮学校に通うのかと言う人もいますが「自分のルーツを知り、言葉・歴史を習い、自尊心を守るため」と答えます。

私たちも卒業まで残り3ヶ月あまりです。今年8月29日に審査が再開しましたが未だに適用決定がされていません。正直、悔しいです。こんな思いは二度と御免です。

後輩たちにこの重荷を背負わせることはできません。最後まで戦います。

高級部3年 李純瑛（リ・すじょん）

公開授業に参加して

USM (ウリハッキョサポートネットメンバーズ)
共同代表 高原さつき

11月23日に愛知朝鮮中高級学校で開催された公開授業、「高校無償化」の即時適用を求める集会、学生芸術公演と、その後に朝鮮高校無償化ネット愛知が呼びかけ開催した懇談会に参加したので、簡単にその感想などを報告したいと思います。

愛知だけでなく沖縄や京都から、そして中国朝鮮族の留学生や韓国出身の方、トヨタ自動車や中部電力などの企業からの参加がありました。朝鮮学校の授業を実際に見ての反応はとても好意的なものばかりで、学生たちの仲の良さや和気藹々とした授業風景などから、朝鮮学校が学生にとってとても居心地が良い場所であることを肌で感じた方が多かったようです。

これまで朝鮮学校と学生に対する日本政府や多くの日本国民による民族教育への無理解や差別・偏見が不当であり、かつ憲法や国際法で定められた権利の侵害という「概念」ではなく、実際にひとりの人間としての学生をどれほどに傷つけ苦しめているかという「痛み感覚」を実感することで、わたしだけでなく参加された方のおの自分自身がこの問題にきちんと向き合いどう取り組んでいくかについて改めて考える機会になったのではないのでしょうか。

学生による芸術公演は、“ウリハッキョはわたしたちの故郷だ”と魂といった朝鮮学校や民族教育への学生の思いを表現したもので構成されていました。特に無償化問題をテーマにした舞踊では、この間に学生たちがどれほど翻弄され、悲しみ、憤り、諦めを感じたか…それでも負けてしまわず、自分たちや後輩のために立ち上がろうということ、まさに言葉ではなく指先からつま先、視線まで、身体いっばいに思いを漲らせている姿を前にして、日本の大人たちは応答もせず、的外れな「批判」を続けているという情けなさに、本当に申し訳なく胸が引き裂かれる思いで涙がこぼれるほどでした。

公開授業と一言で言うのは簡単ですが、厳しい状況にある朝鮮学校の限りある時間や資源のなかで、朝鮮語で行われる授業の内容がわかるよう案内役を多数配置していただき、教科書などの教材もすべて手にとって閲覧することができ、質問にも丁寧に答えてくださったことに感謝し、これほどまでに「理解を得る」努力をしなければならぬおかしさや本来ならば8月末の審査再開の結果として「無償化適用」の祝賀とねぎらいの時間になるはずのところなかなか結果が出ず、更なる負担をおかけしてしまったことなど、お詫びしたい気持ちもありますが、「無償化適用」のために最後の押しをがんばることでその思いに代えさせていただきたいと思います。あとすこし、ともにがんばりましょう！

事務局から…

「朝鮮高校無償化ネット愛知」事務局長 山本かほり

「審査再開」のニュースから3ヶ月がたちました。この間、適用決定のニュースを待ち続けましたが、いまだ結論はでていません。様々な情報からみると、決して楽観できないと感じています。一部マスコミからの激しい朝鮮高校批判に無償化審査が決して影響されることがないように、私たち朝鮮高校無償化ネット愛知は事態を厳しく見守り、一日でも早く無償化決定が出るように要請活動を続けていきます。

8月29日以来事態の進展を見守ることしかできず、朝鮮高校無償化ネット愛知としても静観状態を続けてきました。会員のみなさまへの活動報告もすっかり遅くなりましたが、現在の状況をみなさんと共有したく、今回『トトリ通信』3号を発行することにしました。次号は「無償化決定」の喜びをみなさまと分かちあうものになりたいです。

今号のTweet…

日本国内だけでなく、韓国でも朝鮮学校への支援の輪が広がっています。無償化除外問題では何度も結論を先延ばしにされ、長引く権利獲得運動に疲弊させられることもありました。地道な運動が今までになかった人びとへの繋がりを作るといふ成果を作りつつあります。逆境を糧に、今後の朝鮮学校の民族教育をさらに発展させていきましょう！

朝鮮高校無償化ネット愛知事務局連絡先

〒470-1168

愛知県豊明市栄町南館55

学校法人愛知朝鮮学園内

朝鮮高校無償化ネット愛知

Tel : 0562-97-1815 Fax : 0562-97-1829

e-mail : kwangsin0322@gmail.com